＜有識者　財団法人岐阜県身体障害者福祉協会　会長　松井　逸朗　氏＞

県立病院としての役割について

松井氏　　公立病院の医師は、一日に何人診察するかということが民間に比べて重要でない。発達障害というか、診察するのに全くおとなしくしていないし、押さえつけないと注射も打てないような患者もいっぱいいる。そういう人たちを、１日何人診るということが生活に直結している開業医にまかせるのは無理だと思う。

だから、そういう面で公立病院というのは、民間では大変な人をどんどん受け入れてもらえるような環境にあって欲しい。

同じような話しで、岐阜市も保育所とか幼稚園を民営化しているが、基本的に民営化していって良い。しかし、全部してしまうのではなくて、少しの部分は公が責任を持つ、民間ではなかなか提供できないサービスを公が責任を持って提供できるように、幼稚園も保育所も少しは残さなくてはいけない、全部民間にまかせてはいけないと思う。

下呂温泉病院の建て替えについて

松井氏　　下呂温泉病院の建て替えの話しを聞きにいったことがあって、当時は壮大な計画をしていたが、それはとても無理だということを我々も察知した。下呂温泉病院は、医学的なリハビリだけにして、あとの社会復帰的なものは岐阜にしようと、当時の梶原知事に進言してやりとりしたことがあった。

下呂温泉病院のリハビリというのは、今はわからないが、昔は怪我をすると下呂温泉病院へ行きたいという人がいっぱいいた。下呂温泉病院の改築の際には、その部分にウエイトを置いたものにしてもらうのが良いと思う。救急状態から復帰した人が、下呂温泉病院へ行って温泉で養生しながら治るという流れができると良い。

病院の偏在について

松井氏　　岐阜市内は病院がありすぎるということはないか。以前、ある会社と仕事をさせてもらって、今、その会社は全国で３００以上病院の売店をやっている。だから全国の病院のある程度の概略が彼らに入るが、岐阜市民病院は珍しいと言う。街中にこれだけ病院がある中で、毎日患者がたくさんいて、ドクター、看護師も今のところ足らない状況になくて、良いか悪いかわからないが、流々とやっているというのは本当に珍しいと言う。

県　側　　市民病院も大学病院もあり、民間病院も多数ある。だからといって県立病院が

なくていいかと言うと難しい。今の３つの大きな病院の体制の中で、各病院がそこそこ運営されているということは、それだけの医療需要があるということで、岐阜市だけでなく、その周辺もカバーしている。それだけの機能や技術を持つ病院というのは、拠点としてはこの周辺だと大垣市までいかないと無い。

医師確保について

松井氏　医師が足りないから空き病棟があるという話しは、全国で問題になっている。医師にもある程度の待遇、処遇をしていかないと確保は難しいのではないか。

岐阜市民病院だと、カテーテルの部長や呼吸器の部長というのは、結構、全国的に有名なドクターである。院長とよく話すが、市民病院がうまく回っているのもそういうのがあってのことだから、なんとかそういう医師をつかまえておかないとと言うと、公務員だから彼らだけ特別というのはどうしても難しい、だから、したい研究や研修はどこへでも許可する、そういう点で精一杯で、大事にはしているけど、それ以上のことができないのがとても辛いと言っていた。

院長のワンマンになってはいけないが、少々の待遇の差はつけていかないとだめだと思う。

県　側　県立病院も３病院がそれぞれでそれなりに頑張っていこうと思うと、自治体病院であるという信頼性なくしてはいけないが、本当に必要な医師なら、多少報酬を上げながら、そういう自由にやれる環境が必要かなと思う。

中核医療の拠点として

松井氏　一般的に言われている、産科の不足等に対する地域中核医療の拠点としてあってほしいと一県民として思う。岐阜市だと公立の大きい病院がいくつかあるので、最後はカバーできる。そういうところは、民間も頑張っている。民間も公立も少ないところは、病院もなかなか厳しい。飛騨地域のように、産みに帰ってこなければならないというのは困る。

県　側　特に、今問題になっているような部分というのは、民間ができなければ、県立病院だけでなく市民病院も大学病院もそうだが、公立の病院が、きちんと対応しておかないと、本当の地域医療が崩壊してしまうので、そういうことがないようにと思っている。